

2022

9

月

28

日

水

11

月

23

日

水

祝

休館日

毎週月曜日（10月10日は開館）



The 39th Special Exhibition

その原像を探る

勇者の甲斐

KAI NO TAKEKI-HITO



左上から時計回り
【国宝】金銅心葉形杏葉・【国宝】金銅步搖 綿貫観音山古墳 文化庁蔵（群馬県立歴史博物館保管）
【重要文化財】三角板華総纏付短甲・革製衝角付首 野中古墳 大阪大学蔵
画文帯環状乳神眼鏡 丸山塚古墳 東京大学総合研究博物館蔵
勾玉 甲斐銚子塚古墳 東京国立博物館蔵 ※背景：かんかん塚（茶塚）古墳内部

山梨県立考古博物館

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923 TEL 055-266-3881



甲斐の勇者

たけきひと

とは

何者なのか？

吹負謂甲斐勇者
追以射於是甲斐

甲

斐の勇者は、奈良時代に成立した歴史書「日本書紀」にわずかな言の記述で登場する謎の人物で、672年に勃発した天智天皇の皇位継承をめぐる古代日本最大の内乱である「壬申の乱」において、大海入皇子（後の天武天皇）方の騎兵として甲斐国から動員されたといわれています。その実像は定かではありませんが、6・7世紀の甲斐盆地に築かれた古墳群には、武器や武具、馬具といった勇壮なる騎馬兵の姿を彷彿とさせる副葬品が納められており、そうした人物像が生まれた背景を考古学的な視点からも垣間見ることができま

す。一方、甲斐盆地では既に4世紀代から馬の存在が知られており、最新の研究成果では山梨県産の水晶の勾玉や石材などが東北から東海地方にかけて広く流通していたことが明らかになっています。さらに、これまで渡来系とされていた鉄製品や、倭王権からの配布とされていた石製品などが甲斐盆地内で生産された可能性が指摘されるなど、「甲斐の勇者」という人物像が生まれた背景を探るにあたり、山梨の古墳時代を前期まで遡って見ていく必要性があることが分かってきました。

今回の展示では、山梨と各地の古墳出土品を比較しながら「甲斐の勇者」の原像を探るとともに、古墳時代を通じての被葬者像とその歴史的背景について考えていきます。

第39回 特別展 『甲斐の勇者—その原像を探る—』

開催期間 令和4年9月28日（水）～11月23日（水・祝）

開館時間 9時～17時（入館は16時30分まで）

休館日 毎週月曜日（10月10日は開館）

観覧料 一般・大学生600円（20名以上の団体480円）
小・中・高校生・県内在住の65歳以上の方 無料
障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名 無料



＜後援＞
朝日新聞甲府総局 / エフエム甲府 / エフエム富士 /
産経新聞甲府支局 / テレビ朝日甲府支局 /
テレビ山梨 / 日本ネットワークサービス /
毎日新聞甲府支局 / 山梨新報社
山梨日日新聞社・山梨放送 / 読売新聞甲府支局 /
曾根丘陵公園指定管理者
富士観光開発・富士グリーンテックグループ

＜協力＞山梨県立考古博物館協力会



記念講演会

10月9日（日）第1回『甲斐の先進性』

講師：小林 健二 氏【山梨県埋蔵文化財センター】

10月30日（日）第2回『武器の生産と流通』

講師：藤村 翔 氏【富士市教育委員会】

11月13日（日）第3回『古墳の被葬者像』

講師：若狭 徹 氏【明治大学文学部】



ご予約はコチラ

受講 無料

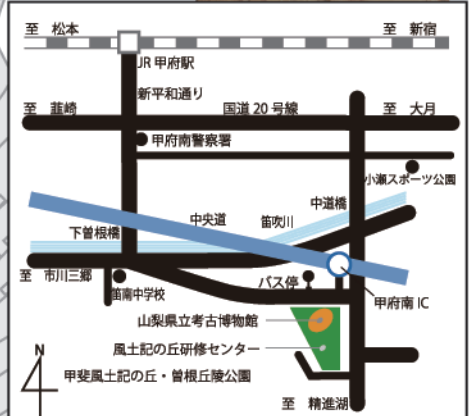
本講演会は Microsoft Teams を使ったオンライン配信がメインです。9月9日（金）よりホームページにて申し込みを受け付けます。また、開催日限定で当館エントランスホールでのオンライン配信視聴も可能です（少人数）。こちらは電話【055-266-3881】または来館にてお申込みください。



山梨県立考古博物館

Twitter: @yamanashi_kouko Facebook: @yamanashi.kouko1103

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923 TEL 055-266-3881 FAX 055-266-3882



- 自動車：中央自動車道甲府南ICを下り1分（IC正面）
- 電車：甲府駅南口から中道橋経由豊富行バス「県立考古博物館」下車
- タクシー：甲府駅から約20分・東花輪駅より約15分

①【重要文化財】眉庇付冑 野中古墳 大阪大学蔵
②【展示は写真のみ】武人埴輪（原品は国宝） 群馬県太田市飯塚町 東京国立博物館蔵
③歴史書に登場する「甲斐勇者」『日本書紀』巻26・27・28（部分） 富士河口湖町教育委員会蔵
△内容は変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。